

持続可能な地域社会に関する特別委員会 管内調査  
令和2年11月12日～13日

1 亀岡市議会（亀岡市）

【調査事項】

- (1) 既存集落まちづくり区域指定制度について
- (2) SDGs未来都市について

【調査目的】

本特別委員会では、特定テーマ「地域コミュニティの維持及び再生について」討議しているところであり、亀岡市の上記取組について調査し、委員会活動の参考とする。

【調査内容】

(1) 既存集落まちづくり区域指定制度について

亀岡市の市街化調整区域である既存集落では、市街化区域に比べて人口減少・少子高齢化が進行している。地域活力の低下や地域コミュニティの衰退が懸念されることから、集落の地域活力や地域コミュニティの維持・活性化を図るため、既存集落まちづくり区域指定制度を平成30年度にスタートした。京都府から、都市計画法に基づく開発許可制度に係る事務委任を受け、市長が区域（4町5地区）と予定建築物の用途（自己用住宅、小規模店舗・飲食店、農産物直売所・農家レストラン、診療所など）を指定して、申請に基づき、指定区域内での指定用途建築物の建築行為を許可している。

これまでに、自己用住宅5件（開発許可2件、建築許可3件）を許可（令和2年11月1日時点）しており、地域への定住促進につながる効果的な取組となることを期待しているとのことであった。

(2) SDGs未来都市について

亀岡市が提案した「かめおか霧の芸術祭×X（かけるエックス）～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～」が、本年7月、内閣府のSDGs未来都市およびSDGsモデル事業に選定された。

「かめおか霧の芸術祭」は、農業、観光及び環境といった地域資源の見える化、知の共有及び相乗効果の創出による課題解決を活動テーマとして2018年度から開催している。

行政とアーティストが協働して分野横断的に人々をつなぎ、交流人口を創出し、循環的な経済圏や新陳代謝のあるコミュニティを形成し、課題＝テーマが多くある地域こそその地方創生の実現を目指していくとのことであった。

なお、調査事項を聴取した後、亀岡市移住・定住促進施設「離れ」にのうみを視察した。

【主な質問事項】

- ・エコバッグ商品化のきっかけ（市の発想か、企業等の提案か）について
- ・SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業の国庫補助状況について
- ・「離れ」にのうみの改修費用について など



概要説明を聴取



亀岡市移住・定住促進施設「離れ」  
にのうみを視察

## 2 福知山市議会（福知山市）

### 【調査事項】

子育て施策と連携した移住・定住促進施策について

### 【調査目的】

本特別委員会では、特定テーマ「地域コミュニティの維持及び再生について」討議しているところであり、福知山市の上記取組について調査し、委員会活動の参考とする。

### 【調査内容】

福知山市の合計特殊出生率2.02は、京都府内1位（市区町村中／2020年7月時点）を誇るが、平成12年をピークに生産年齢人口を中心に人口が減少傾向にある。

将来の急激な人口減少が懸念されることから、同市は、平成28年度から、庁内移住定住プロジェクトチームによる「移住定住サポートセンター（ワンストップ相談窓口）」を設置し、庁内で連携して移住者の相談に対応している。

特に、「子育て総合相談窓口」と連携し、子育て世代の移住者が同市へ転入する際には、必ず同窓口（子育てコンシェルジュと専門職が多様な子育てに係る相談やニーズに、迅速に対応）を案内している。

また、同市が昨年9月にスタートしたLINEによる子育て相談（行政機関としては、京都府内初）を移住希望者も利用できるほか、地域子育て支援拠点では、移住家族の仲間づくり（保護者同士や地域とのつながり）の場となっている。

今後とも、移住された子育て家庭を全面的に支援していきたいとのことであった。

### 【主な質問事項】

- ・ コロナ禍で、里帰り出産や出産時のパートナーの立ち会いができない、また産前産後のサポートが受けられない状況のもと、産後鬱による自殺者増加に対する対策状況について
- ・ LINE 子育て相談の対応者について

- ・移住者の元居住地（京都府外からが多いのか、福知山市近辺からが多いのか）について
- ・移住者の雇用安定に係る取組の有無等について ほか



概要説明を聴取



議場を見学

### 3 綾部市役所、特定非営利活動法人里山ねっと・あやべ〔於：綾部市里山交流研修センター〕（綾部市）

#### 【調査事項】

都市農村交流と移住・定住促進及びコミュニティナースの取組について

#### 【調査目的】

本特別委員会では、特定テーマ「地域コミュニティの維持及び再生について」討議しているところであり、綾部市及び特定非営利活動法人里山ねっと・あやべの上記取組について調査し、委員会活動の参考とする。

#### 【調査内容】

綾部市の現在の人口は、昭和25年の市政施行時の人口から約6割まで減少している。同市は、第5次総合計画（2011年～2020年）において、2020年の推計人口33,000人を上回る人口の確保を目標に掲げ、特定非営利活動法人里山ねっと・あやべとともに、様々な交流や移住・定住施策を推進している。

平成20年度から開設している定住サポート総合窓口により、年間平均20世帯（令和2年度については、11月13日時点で20世帯50人）の定住実績を出している。

また、同市は、地域の維持・活性化を図るため、全国に先駆けて、看護師の資格を有するコミュニティナースを都市地域等から受け入れている。コミュニティナースは、同市へ移住（住居は市が借用）し、市の地域おこし協力隊として、地域住民の健康づくりやコミュニティづくりを支援している。

特定非営利活動法人里山ねっと・あやべは、里山の資源を活用し、農業体験や農家民宿といった都市農村交流により、関係人口・交流人口づくりや定住促進のための活動を推進しており、活動拠点である綾部市里山交流研修センターにおいて、毎年度2,000人から7,000人の交流人口を創出している。

今後とも、綾部ファンを拡大し、交流から定住へ、定住から地域振興へ向けて取り組んでいきたいとのことであった。

### 【主な質問事項】

- ・定住支援住宅の入居期間（3年間）延長の可否等について
- ・30～39歳の定住実績が多い理由について
- ・コミュニティナースの取組の成果について
- ・移住元居住地（都道府県等別）で一番多い京都府内定住者の市町村別内訳についてなど



概要説明を聴取



施設を視察

## 4 田舎生活研究所（綾部市）

### 【調査事項】

田舎コミュニティ活性化の取組について

### 【調査目的】

本特別委員会では、特定テーマ「地域コミュニティの維持及び再生について」討議しているところであり、田舎生活研究所の上記取組について調査し、委員会活動の参考とする。

### 【調査内容】

田舎生活研究所は、綾部市への移住・定住促進と、地域の活性化を目的に設立され、住まいが移住への一つの鍵となることから、古民家を活用した田舎暮らしを提案している。地域の資源・魅力を生かした体験施設や、田舎生活体験ツアーなどのイベントの開催、移住定住相談会の実施等により、「田舎に住む」「自然と暮らす」体験を通じて田舎のコミュニティづくりや地域づくりに取り組んでいる。

また、綾部市で起業される方等をサポートするため、コワーキングスペースやシェアオフィスを設置・運営している。コワーキングスペースやシェアオフィスについては、綾部市と里山の活性化のベースとして多目的に利用できるイベントスペースとしても活用し、綾部市内外問わず、外国人、Iターン、Uターンが繋がり新たな価値を生み出す場所として機能している。

今後とも、地域の財産を発掘し、田舎暮らしの可能性を通じて、未来の地方のライフスタイルを提案し、心豊かな暮らしを実現していくために取り組んでいきたいとのことであった。

なお、調査事項を聴取した後、町家一棟貸し旅館である若松旅館及び古民家展示場（多目的古民家施設）を視察した。



【主な質問事項】

- ・活動の資金源について
- ・ワーケーションへの意向の有無等について
- ・地域振興計画とのタイアップに対する意向の有無等について など



概要説明を聴取



若松旅館を視察



古民家展示場（多目的古民家施設）を視察

